

小児科の主な疾患別入院患者数

平成	24	25	26	27	28
気管支炎肺炎	389	358	277	358	398
急性喉頭炎	16	12	16	16	25
気管支喘息	23	49	30	50	31
急性胃腸炎	105	85	84	82	96
尿路感染症	36	42	32	26	30
川崎病	45	39	40	45	39
熱性けいれん	13	21	7	21	32
総数	908	855	784	912	1123

平成28年は、気管支炎・肺炎、喉頭炎、胃腸炎の入院が増え、全体数でも1123例に増えました。

平成28年 小児科在院日数

分類	疾患名	総数	最小	最大	平均
気道感染症	急性咽頭炎	166	2	15	4.1
	急性喉頭炎	25	1	7	3.8
	急性気管支炎・肺炎	398	1	13	4.8
けいれん	熱性けいれん	32	2	7	4.0
アレルギー	気管支喘息	31	3	7	4.5
消化器疾患	急性胃腸炎	96	2	10	3.8
	腸重積症	12	2	5	2.7
感染症	突発性発疹症	27	2	6	3.8
	尿路感染症	30	1	10	6.5
	無菌性髄膜炎	3	4	5	4.3
	細菌性髄膜炎	1	19	19	19
	伝染性単核症	3	5	7	5.7
膠原病	川崎病	39	3	14	8.1
	アレルギー性紫斑病	15	2	9	6.9
総計		1123	1	40	4.8

小児科の主な入院疾患の在院日数は表のごとくです。ほとんどで平均3～5日間、川崎病や尿路感染症でも平均6～8日間、全症例では、平均4.8日、中央値は4日です。

平成28年 クリニカルパス実施状況

パス名	例数
急性気管支炎・肺炎	451
急性咽頭炎・扁桃炎	138
気管支喘息	30
急性喉頭炎	19
急性胃腸炎	116
原因病巣不明発熱	98
川崎病	42
尿路感染症	29
鎮静下CT・MRI検査	16
合計	946

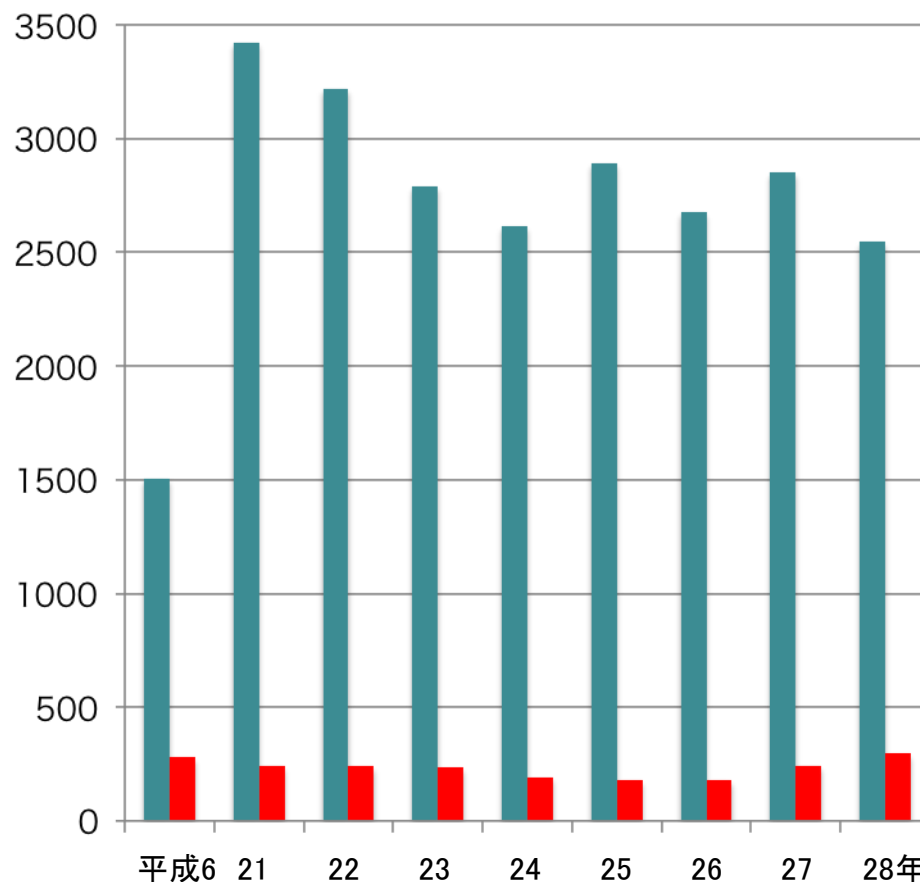
年間入院数 1123例

パス実施率 84.2%

現在、小児科で実施されているクリニカルパスは、16種類です。表は主なもので入院数の多い疾患はほぼカバーされており、実施率は84%です。

小児科救急患者数と入院率

	受診数	入院数	入院率 (%)
平成6年	1505	280	18.6
21年	3424	243	7.1
22年	3220	240	7.5
23年	2791	235	8.4
24年	2616	194	7.4
25年	2894	180	6.2
26年	2677	179	6.7
27年	2852	244	8.5
28年	2545	296	11.6



平成6年と最近8年間の小児科救急患者数とそこからの入院数です。休日夜間診療所の効果で受診数は一時減少しましたが、最近ではほぼ2700人前後です。救急受診の約90%が入院を必要としない軽症例です。